

E. 食事の習慣やダイエットについて、以下の設問にお答えください。

	あてはまる	ややあてはまる	いえない	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 減量を目的とした食品やサプリメントを利用することがある	5	4	3	2	1	
2. 夜食や間食をとる頻度を少なめにするよう心がけている	5	4	3	2	1	
3. 甘いものやカロリーの高そうなものをひかえるよう心がけている	5	4	3	2	1	
4. 体重を考慮してカロリー計算をした食事をすることがある	5	4	3	2	1	
5. バランスのよい食事を心がけている	5	4	3	2	1	
6. 体重を考慮して食事を抜くことがある	5	4	3	2	1	
7. 食事はゆっくり食べるように心がけている	5	4	3	2	1	
8. 普段から腹八分目までにして、食べ過ぎないように心がけている	5	4	3	2	1	
9. テレビや雑誌で紹介されたダイエットをすることがある	5	4	3	2	1	
10. 短期間で体重を減らすようなダイエットをすることがある	5	4	3	2	1	
11. 普段から低カロリー食品を中心に食べるよう心がけている	5	4	3	2	1	
12. 減量を目的とした運動をすることがある	5	4	3	2	1	
13. 普段から「食べ過ぎてはいけない」と考えている	5	4	3	2	1	
14. 長期間の計画的なダイエットをすることがある	5	4	3	2	1	

F. 現在すすめられている保健事業について、以下の設問にお答えください。

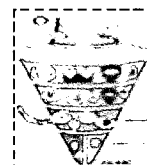
F1. あなたは「マタニティマーク」(右図)について知っていますか。

1. このマークの意味を知っている
2. このマークを見たことはあるが、意味は知らない
3. このマークを見たことがない



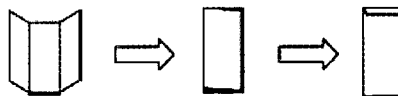
F2. あなたは「食事バランスガイド」(右図)について知っていますか。

1. 「食事バランスガイド」の意味・内容を知っている
2. 「食事バランスガイド」の名前は聞いたことがあるが、内容は知らない
3. まったく知らない



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

添付の封筒に本回答用紙を三つ折りにして入れ、シールをはがして封をしてください。ありがとうございます。



《この調査票は、表紙を含め、合計4頁にわたっています。》

4頁

## 妊娠前後の喫煙に関する研究

鈴木 茜	千葉県市原市
曾根 祐子	愛仁会看護助産専門学校
太田 有紀	愛仁会看護助産専門学校
瀬口 のぶえ	愛仁会看護助産専門学校
中村 敦子	愛仁会看護助産専門学校
三木 弘美	愛仁会看護助産専門学校
増本 綾子	愛仁会看護助産専門学校
小川 知	愛仁会看護助産専門学校
野間 裕子	愛仁会看護助産専門学校
倉本 孝子	愛仁会看護助産専門学校
渡辺 多恵子	茨城県常総市
磯貝 恵美	愛知県吉良町
樋口 善之	福岡県立大学看護学部
原田 正平	国立成育医療センター成育政策科学研究部
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部
山縣 然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部

健やか親子21では、「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」分野にて、「妊娠中の喫煙率、育児期間中の両親の自宅での喫煙率」の減少を目指しており、これらへの取り組みが課題となっている。

今回、喫煙習慣のある妊産婦における妊娠中の禁煙実施状況、および出産後の禁煙継続状況については把握することを目的に、1府4件において、出産経験のある女性922名を対象に調査した。その結果、得られた知見は以下のとおりであった。

1. 出産経験のある女性の喫煙状況は、「もともと吸わない」が54.1%、「以前吸っていたが、現在は吸っていない」が25.7%、「現在吸っている」が14.9%、無回答が5.2%であった。4割程度の女性に喫煙経験があった。
2. 喫煙経験があるもののうち、喫煙していた時期が「第1子妊娠中（母子健康手帳を受け取り後）」が12.4%、「第1子の出産直後（入院中）」は4.3%であった。
3. 禁煙に取り組んだ経験があるものは、無回答を除いた喫煙経験者のうち、82.7%であった。
4. 禁煙に取り組んだ経験のあるもののうち、禁煙を継続できているものは52.5%であった。
5. 禁煙を継続できなかったものの喫煙再開のきっかけは、「育児・家事でイライラして」「がまんできなかつたから」が多かった。
6. 禁煙に関する問診が母子健康手帳受け取り時にあったものは21.8%、妊婦健診時が23.6%であり、少なかった。
7. 禁煙に関する指導が母子健康手帳受け取り時にあったものは9.0%、妊婦健診時が23.6%であり、少なかった。
8. 受動喫煙に関して指導を受けたものは41.6%であり、半数に満たなかつた。
9. 出産施設は施設内禁煙であったと回答した女性は82.0%であった。
10. 夫が禁煙しないと妻も禁煙していないものが多く、夫が出産後喫煙していると妻も禁煙継続できなかったものの割合が多かった。夫の喫煙と妻の喫煙には関連があった。

## I. 研究の目的

健やか親子21<sup>1)</sup> 2) では、「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」分野にて、「妊娠中の喫煙率，育児期間中の両親の自宅での喫煙率」の減少を目指しており，策定時のベースライン値は，「妊娠中10.0%，育児期間中の父親35.9%，育児期間中の母親12.2%」で，中間評価での直近値は「妊娠中7.3%，7.9%，8.3%（3ヶ月児，1歳6か月児，3歳児健診での割合），育児期間中の父親54.9%，55.9%，54.5%，育児期間中の母親11.5%，16.5%，16.7%」であり，妊娠・育児期間中の喫煙の割合を低下させる取り組みが課題となっている。

今回の調査目的は，喫煙習慣のある妊産婦における妊娠中の禁煙実施状況，および出産後の禁煙継続状況について把握することである。

## II. 研究の方法

### 1. 対象

茨城県，千葉県，愛知県，福井県，大阪府の1府4県において，出産経験のある女性を調査対象とした。

### 2. 方法

乳幼児児健診時に，あるいは，保育所を通じて，自記式調査票を配布した。調査参加にあたっては，調査票表紙に，調査の目的，調査責任者の連絡先を記し，1) 得られた情報により，個人を特定することはない，2) 調査への参加は自由であり，不参加，未記入による不利益は生じないこと，を明記した。

なお，本調査は，平成19年12月～平成20年1月にかけて実施した。

### 3. 調査内容

- A) 基本的属性・出産時の状況
- B) 喫煙状況・喫煙時期
- C) 禁煙の実施状況

D) 禁煙の継続状況

E) 禁煙指導の受講状況

## 4. 分析方法

調査に協力が得られたものは，992名について，回収した調査票の有効回答をもとに，集計分析を行った。

## III. 結果

### 1. 基本的属性・出産時の状況

#### 1) 対象の現在の年齢

平均年齢は，31.6歳（標準偏差4.8，最小18，最高48）であった。

#### 2) 第1子出産時の年齢

平均年齢は，27.4歳（標準偏差4.5，最小16，最高45）であった。

#### 3) 現在の第1子の年齢

平均月齢は，47.1ヶ月（標準偏差36.3，最小17，最高240）であった。

### 2. 喫煙状況

#### 1) 現在の喫煙状況（表1）

「あなたは喫煙されていますか」という設問に対する922名の回答状況は，「現在吸っている」が148名（14.9%），「以前は吸っていたが，現在は吸っていない」が255名（25.7%），「もともと吸わない」が547名（54.1%），無回答が52名（5.2%）であった。

#### 2) 喫煙していた（いる）時期（表2）

「あなたは喫煙されていますか」で「現在吸っている」「以前は吸っていたが，現在は吸っていない」のどちらかを回答した403名のみ（以下，「喫煙経験者」とする）を対象に，喫煙していた（いる）時期について，複数選択式により回答を求めたところ，4名を除く399名の回答が得られた。

「第1子を妊娠する前」が344名（86.9%），「第1子の妊娠がわかった時」が158名（39.9%），「第1子の母子健康手帳を受け取った時」が52名（13.1%），「第1子の妊娠

中（手帳受け取り後）が49名（12.4%），「第1子の出産直後（入院中）」17名（4.3%），「退院後から産後1ヶ月まで」が26名（6.6%），「産後1ヶ月を過ぎてから」が100名（25.3%）であった。

### 3) 喫煙が習慣化したときの年齢（図1）

平均年齢は、19.2歳（標準偏差2.6, 最小12, 最高35）であった（図1）。

### 4) 妊娠中に喫煙が習慣化した割合

喫煙が習慣化したのが妊娠中と回答したものは13名（全サンプル中の1.4%）であった。

### 5) 喫煙が習慣化したきっかけ（表3）

喫煙経験者403名に、喫煙が習慣化したきっかけについて、複数選択方式により回答を求めたところ、383名の回答が得られた。

「周囲の喫煙から」が208名（54.3%），「興味本位で」が136名（35.5%），「ストレス解消」が129名（33.7%），「なんとなく」が121名（31.6%），「カッコいいから」が25名（6.5%），「太らないから」が19名（5.0%），「大人に近づきたいから」が9名（2.3%），「多忙」が7名（1.8%），「夫の喫煙」が4名（1.0%），「その他」が5名（1.3%）であった。

6) 喫煙が習慣化したときの年齢を早めたきっかけで、年齢に有意差がみられたもの

「興味本位」を選択したものの喫煙習慣化した平均年齢は18.2歳（標準偏差2.4），選択しなかったものの喫煙習慣化した平均年齢は19.7歳（標準偏差2.7）であった（ $p < 0.01$ ）。

「カッコいいから」を選択したものの喫煙習慣化した平均年齢17.6歳（標準偏差2.2）は、選択しなかったものの喫煙習慣化した平均年齢は19.3歳（標準偏差2.7）であった（ $p < 0.01$ ）。

「大人に近づきたいから」を選択したものの喫煙習慣化した平均年齢17.1歳（標準偏差2.7）は、選択しなかったものの喫煙習慣化した平均年齢は19.3歳（標準偏差2.6）

であった（ $p < 0.01$ ）。

## 3. 禁煙の実施状況

### 1) 禁煙の取り組み（表1）

「これまでに禁煙に取り組んだことがありますか」という設問に対して、「はい」と回答した（以下、「禁煙実施者」とする）割合は324名（喫煙経験者403名の80.4%、無回答者を除いた392名の82.7%）であった。

### 2) 禁煙をはじめた時期（表1）

禁煙実施者のうち禁煙を始めた時期について回答を求めたところ、310名の回答が得られ、無回答が14名であった。

「第1子を妊娠する前」が112名（34.6%），「第1子の妊娠がわかった時」が151名（46.6%），「第1子の母子健康手帳を受け取った時」が11名（3.4%），「第1子の妊娠中（手帳受け取り後）」が14名（4.3%），「第1子の出産直後（入院中）」5名（1.5%），「退院後から産後1ヶ月まで」が3名（0.9%），「産後1ヶ月を過ぎてから」が14名（4.3%），無回答が14名（4.3%）であった。

禁煙実施者324名のうち、「妊娠・出産時に禁煙した」が198名（61.1%）であることがわかった。

（以後、禁煙に関する集計は、「妊娠・出産時に禁煙した」198名のみを対象とする。）

### 2) 禁煙したきっかけ

妊娠・出産時に禁煙した198名に対し、複数選択方式により回答を求めたところ、187名の回答が得られた。

「妊娠したから」が136名（72.7%），「子どもに悪いから」が109名（58.3%），「つわりがあったから」が47名（25.1%），「健康上よくないから」が37名（19.8%），「罪悪感」が20名（10.7%），「なんとなく」が7名（3.7%），「夫（家族）が同時に禁煙してくれたから」が6名（3.2%），「周囲から喫煙に対して注意を受けたから」が6名（3.2%），

「妊娠中、異常があったから」が5名(2.7%),「病院・クリニックから禁煙について指導を受けたから」が3名(1.6%),「市町村保健師から禁煙について指導を受けたから」が0名(0.0%),「その他」5名(2.7%)であった。

### 3) 禁煙時の前後の状況(表4)

妊娠・出産時に禁煙した198名に、禁煙時の回答者の状況について7項目の回答を求め、無回答のものを除き集計した。

#### a. 夫(家族)との関係

「良好だった」が134名(89.3%),「良好でなかった」が16名(10.7%)であった。

#### b. 体調

「よかった」が107名(67.3%),「悪かった」が52名(32.7%)であった。

#### c. 楽しさ

「楽しい時期だった」が87名(57.6%),「つらい時期だった」が64名(42.4%)であった。

#### d. ゆとり

「ゆったりしていた」が86名(52.1%),「イライラしていた」79名(47.9%)であった。

#### e. 気持ち

「張りのある生活だった」が116名(76.8%),「ふさぎこんでいた」が35名(23.2%)であった。

#### f. 周囲からのサポート

「あった」が86名(58.1%),「なかった」が62名(41.9%)であった。

#### g. 夫(家族)の禁煙

「禁煙していた」が29名(19.1%),「たばこを吸っていた」が123名(80.9%)であった。

## 4. 禁煙の継続状況

### 1) 禁煙の継続状況(表1)

禁煙の継続状況について、「継続している」が104名(52.5%),「継続できなかった」が90名(45.5%),「無回答」が4名

(2.0%)であった。

### 2) 再喫煙の時期(表1)

継続できなかった90名に対して、いつからまた吸い始めたかをたずねたところ、84名の回答が得られた。

「第1子の妊娠がわかった時」が3名(3.3%),「第1子の母子健康手帳を受け取った時」が0名(0.0%),「第1子の妊娠中(手帳受け取り後)」が5名(5.6%),「第1子の出産直後(入院中)」3名(3.3%),「退院後から産後1ヶ月まで」が8名(8.9%),「現在」が65名(72.2%),無回答が6名(6.7%)であった。

### 3) 再喫煙のきっかけ(表5)

継続できなかった90名に対して、再び吸い始めたきっかけをたずねたところ、86名の回答が得られた。

「育児・家事でイライラして」が48名(52.7%),「がまんできかなかったから」が38名(41.8%),「母乳を与えていないから」が18名(19.8%),「なんとなく」が18名(19.8%),「妊娠中ほど気をつけなくてよいと考えて」が12名(13.2%),「太らないため」が8名(8.8%),「やせると思ったから」が0名(0.0%)であった。

### 4) 再喫煙時の状況(表4)

継続できなかった98名に、再喫煙時の回答者の状況について7項目の回答を求め、無回答のものを除き集計した。

#### a. 夫(家族)との関係

「良好だった」が58名(86.6%),「良好でなかった」が9名(13.4%)であった。

#### b. 体調

「よかった」が55名(82.1%),「悪かった」が12名(17.9%)であった。

#### c. 楽しさ

「楽しい時期だった」が46名(69.7%),「つらい時期だった」が20名(30.3%)であった。

#### d. ゆとり

「ゆったりしていた」が33名(46.5%),

「イライラしていた」38名（53.5%）であった。

e. 気持ち

「張りのある生活だった」が53名（81.5%）、「ふさぎこんでいた」が12名（18.5%）であった。

f. 周囲からのサポート

「あった」が36名（57.1%）、「なかった」が27名（42.9%）であった。

g. 夫（家族）の禁煙

「禁煙していた」が10名（13.7%）、「たばこを吸っていた」が63名（86.3%）であった。

（以後の集計は、対象者全員の結果である。）

## 5. 禁煙指導の受講状況

### 1) 母子健康手帳受け取り時の喫煙問診の有無

「あなたは第1子の母子健康手帳を受け取った際に、その担当者から、タバコを吸っているかどうかについて、聞かれましたか」という設問は、「はい」が197名（全体の19.9%、無回答を除くと21.8%）、「いいえ」が705名（全体の71.1%、無回答を除くと78.2%）、無回答が90名（全体の9.1%）であった。

手帳受け取り時の喫煙問診と喫煙状況については、有意な関連はなかった。

### 2) 母子健康手帳受け取り時の保健指導の有無

「あなたは第1子の母子健康手帳を受け取った際に、その担当者から、禁煙をするように勧められ、その方法について説明を受けたことがありますか」という設問は、「はい」が76名（全体の7.7%、無回答を除くと9.0%）、「いいえ」が772名（全体の77.8%、無回答を除くと91.0%）、無回答が144名（14.5%）であった。

手帳受け取り時の禁煙指導と喫煙状況との関連をみると、「現在吸っている」ものは

「指導あり」が18名（13.5%）、「指導なし」が115名（86.5%）、「以前は吸っていたが、現在は吸っていない」ものでは「指導あり」が24名（10.1%）、「指導なし」が213名（89.9%）、「もともと吸わない」ものでは「指導あり」が34名（7.2%）、「指導なし」が435名（92.8%）であった。「現在吸っている」「以前吸っていたが、現在は吸っていない」「もともと吸わない」の順に禁煙指導を受けた割合が多く、有意な関連はなかった。

### 3) 妊婦健診時の喫煙問診の有無

「あなたは病院やクリニックの妊婦健診時にタバコを吸っているかどうかについて聞かれましたか」という設問は、「はい」が596名（全体の19.4%、無回答を除くと23.6%）、「いいえ」が621名（全体の62.6%、無回答を除くと76.4%）、無回答が86名（8.7%）であった。

妊婦健診時の喫煙問診と喫煙状況については、有意な関連はなかった。

### 4) 妊婦健診時の保健指導の有無

「妊婦健診時に禁煙するように勧められ、その方法について説明を受けたことがありますか」という設問は、「はい」が192名（全体の19.4%、無回答を除くと23.6%）、「いいえ」が621名（全体の62.6%、無回答を除くと76.4%）、無回答が179名（18.0%）であった。

妊婦健診時の禁煙指導と喫煙状況との関連をみると、「現在吸っている」ものは「指導あり」が42名（31.3%）、「指導なし」が92名（68.7%）、「以前は吸っていたが、現在は吸っていない」ものでは「指導あり」が56名（24.1%）、「指導なし」が176名（75.9%）、「もともと吸わない」ものでは「指導あり」が92名（21.0%）、「指導なし」が346名（79.0%）であった。「現在吸っている」「以前吸っていたが、現在は吸っていない」「もともと吸わない」の順に禁煙指導を受けた割合が多く、有意に関連はあった（ $p < 0.05$ ）。

### 5) 出産施設内が禁煙か否か

「ご出産された病院・クリニックは、施設内禁煙でしたか」という設問は、「はい」が737名（全体の74.3%、無回答を除くと82.0%）、「いいえ」が68名（全体の6.9%、無回答を除くと7.6%）、「わからない」が94名（全体の9.5%、無回答を除くと10.5%）、無回答が93名（9.4%）であった。

出産施設の施設内禁煙状況と喫煙状況との関連をみると、「現在吸っている」ものは「施設内禁煙である」が106名（77.4%）、「施設内禁煙でない」が22名（16.1%）、「施設内禁煙か不明」が9名（6.6%）、「以前は吸っていたが、現在は吸っていない」ものでは「施設内禁煙である」が206名（85.1%）、「施設内禁煙でない」が19名（7.9%）、「施設内禁煙か不明」が17名（7.0%）、「もともと吸わない」ものでは「施設内禁煙である」が416名（81.4%）、「施設内禁煙でない」が27名（5.8%）、「施設内禁煙か不明」が68名（13.3%）であった。「現在吸っている」「以前吸っていたが、現在は吸っていない」「もともと吸わない」の順に施設内禁煙ではなかったと回答した割合が多く、有意に関連はあった（ $p < 0.01$ ）。

#### 6) 受動喫煙に関する指導状況

「妊娠中には受動喫煙を受けないよう、家庭内で気をつけるよう、指導を受けたことがありますか」という設問は、「はい」が413名（全体の41.6%、無回答を除くと47.1%）、「いいえ」が464名（全体の46.8%、無回答を除くと52.9%）、無回答が115名（11.6%）であった。

### 6. 夫の喫煙状況

#### 1) 夫の喫煙状況

複数選択方式により全員に回答を求めたところ、780名の回答が得られた。

「もともと吸っていない」が228名（29.2%）、「ずっと吸っている」が443名（56.8%）、「妊娠を機に禁煙した」が51名（6.5%）、「妊娠中も吸っていた」が240名

（30.8%）、「出産を機に禁煙した」が34名（4.4%）、「出産後再び吸い始めた」が33名（4.2%）であった。

#### 2) 夫の喫煙状況と妻の喫煙喫煙状況との関連

夫の喫煙に関して「もともと吸っていない」を選択した224名は、出産経験のある女性（回答者）の喫煙状況は「現在吸っている」が8名（3.6%）、「以前吸っていたが、現在は吸っていない」が39名（17.4%）、「もともと吸わない」が177名（79.0%）であった。一方夫は「もともと吸っていない」を選択しなかった651名は、「現在吸っている」が124名（19.0%）、「以前吸っていたが、現在は吸っていない」が201名（30.9%）、「もともと吸わない」が326名（50.1%）であった。夫が「もともと吸わない」ほうが妻も「もともと吸わない」と回答したものが多く、夫の喫煙と妻の喫煙には有意に関連があった（ $p < 0.01$ ）。

また、同様に夫の喫煙に関して「ずっと吸っている」を選択した439名は、回答者の喫煙状況は「現在吸っている」が101名（23.0%）、「以前吸っていたが、現在は吸わない」が142名（32.3%）、「もともと吸わない」が196名（44.6%）であった。一方夫は「ずっと吸っている」を選択しなかったもの436名は、「現在吸っている」が31名（7.1%）、「以前吸っていたが、現在は吸っていない」が98名（22.5%）、「もともと吸っていない」が307名（70.4%）であった。夫が「ずっと吸っている」ほうが妻も「現在喫煙している」と回答したものが多く、夫の喫煙と妻の喫煙には有意に関連があった（ $p < 0.01$ ）。

#### 3) 夫の喫煙状況と妻の禁煙継続の有無との関連

「禁煙は今も続いていますか」で「はい」と回答したもので、夫の喫煙は「もともと吸っていない」に「はい」を選択したものは36名（17.4%）であったのに対し、

「禁煙は今も続いていますか」で「いいえ」と回答したもので、夫の喫煙は「もともと吸っていない」に「はい」を選択したものは6名(5.5%)であった。禁煙に取り組み禁煙が継続できた女性は、夫にもともと喫煙習慣がないものが多く、有意に関連があった( $p<0.01$ )。

また、「禁煙は今も続いていますか」で「はい」と回答したもので、夫の喫煙は「ずっと吸っている」に「はい」を選択したものは123名(59.4%)であったのに対し、「禁煙は今も続いていますか」で「いいえ」と回答したもので、夫の喫煙は「ずっと吸っている」に「はい」を選択したものは84名(76.4%)であった。禁煙に取り組み禁煙が継続できなかった女性は、夫がずっと喫煙しているものが多く、有意に関連があった( $p<0.01$ )。

さらに、「禁煙は今も続いていますか」で「はい」と回答したもので、夫の喫煙は「出産後再び吸い始めた」に「はい」を選択したものは5名(2.4%)、であったのに対し、「禁煙は今も続いていますか」で「いいえ」と回答したもので、夫の喫煙は「出産後再び吸い始めた」に「はい」を選択したものは10名(9.1%)、であった。禁煙に取り組み禁煙が継続できなかった女性は、夫も出産後再び吸い始めているものが多く、有意に関連があった( $p<0.05$ )。

#### IV. 考察

今回の調査では、夫の喫煙状況と妻の喫煙状況には関連があることがわかった。また、妻の禁煙継続の有無には、夫の喫煙状況が関連していることが明らかとなった。また、久保らの調査でも禁煙の関連要因として周囲などの人々など外的要因の影響が大きく、妊娠中からの支援には女性ばかりでなく、周囲への働きかけが重要であるとしている<sup>3)</sup>。そのため、妊娠・育児期間中の

禁煙への取り組みは、夫を巻き込んだ取り組みが効果的であることが示唆された。

禁煙に取り組んだが喫煙を再開してしまったきっかけとして、「育児・家事でイライラして」「がまんでできなかったから」「母乳を与えていないから」「なんとなく」等に多くのものが回答していた。そのため、個別の生活環境や心身の健康状態などを把握したうえで、喫煙したくなる状況に合わせた個別支援の取り組みが今後の課題と思われる。禁煙支援を行ううえでは口頭のみでの指導よりも口頭とリーフレットを使用した指導のほうが、有意に喫煙本数が減少した<sup>3)</sup>ことから、個別支援の際の媒体の使用なども検討して行く必要があると思われる。

現在の喫煙状況と出産施設における施設内禁煙との関連がみられている。2003年施行の健康増進法第25条では学校、病院、官公庁施設等の公共の場を管理するものに対し、「受動喫煙を防止するための措置を講ずるよう努めなければならない」と定められている。今回の調査では、敷地内禁煙が実施されていない現場もあることが明らかとなった。出産後も禁煙を継続されるためには、出産する病院やクリニックなどの医療施設の敷地内禁煙の取り組みの徹底が求められ、今後の課題と思われる。

また、今回の調査では、一度も喫煙したことがない女性は54.1%であり、約5割は喫煙経験があることがわかった。さらに、喫煙開始年齢を若年化させている「きっかけ」では、「大人に近付きたいから」「かっかいいから」「興味本位」の3項目に関連がみられた。そのため、妊娠中や出産後の女性への禁煙支援を考えるだけでなく、それ以前の時期からの取り組みがいかに重要であることは明らかである。学習指導要領にもとづき、小中学校等の教育現場では喫煙防止教育が展開されている。喫煙が胎児や子どもの健康に害することが教育されているが、さらなる効果的な教育が重要であると



思われる。また、学校教育での喫煙防止教育の充実とともに保健医療機関での継続教育が必要と思われる。保健衛生部門の専門家である地域保健師と、医療部門の産科医師や助産師と、教育部門の専門家である学校教員との連携が必要であると考えられた。

## V. まとめ

健やか親子21では、「妊娠中の喫煙率、育児期間中の両親の自宅での喫煙率」の減少を目指しており、これらへの取り組みが課題となっている。

今回、喫煙習慣のある妊産婦における妊娠中の禁煙実施状況、および出産後の禁煙継続状況については把握することを目的に、1府4件において、出産経験のある女性922名を対象に調査した。その結果、得られた知見は以下のとおりであった。

1. 出産経験のある女性の喫煙状況は、「もともと吸わない」が54.1%、「以前吸っていたが、現在は吸っていない」が25.7%、「現在吸っている」が14.9%、無回答が5.2%であった。4割程度の女性に喫煙経験があった。
2. 喫煙経験があるもののうち、喫煙していた時期が「第1子妊娠中（母子健康手帳を受け取り後）」が12.4%、「第1子の出産直後（入院中）」は4.3%であった。
3. 禁煙に取り組んだ経験があるものは、無回答を除いた喫煙経験者のうち、82.7%であった。
4. 禁煙に取り組んだ経験のあるもののうち、禁煙を継続できているものは52.5%であった。
5. 禁煙を継続できなかったものの喫煙再開のきっかけは、「育児・家事でイライラして」「がまんできなかつたから」が多かった。
6. 禁煙に関する問診が母子健康手帳受け取り時にあったものは21.8%、妊婦健診時が23.6%であり、少なかった。
7. 禁煙に関する指導が母子健康手帳受け取り時にあったものは9.0%、妊婦健診時が23.6%であり、少なかった。
8. 受動喫煙に関して指導を受けたものは41.6%であり、半数に満たなかった。
9. 出産施設は施設内禁煙であったと回答した女性は82.0%であった。
10. 夫が禁煙しないと妻も禁煙していないものが多く、夫が出産後喫煙していると妻も禁煙継続できなかつたものの割合が多かった。夫の喫煙と妻の喫煙には関連があった。

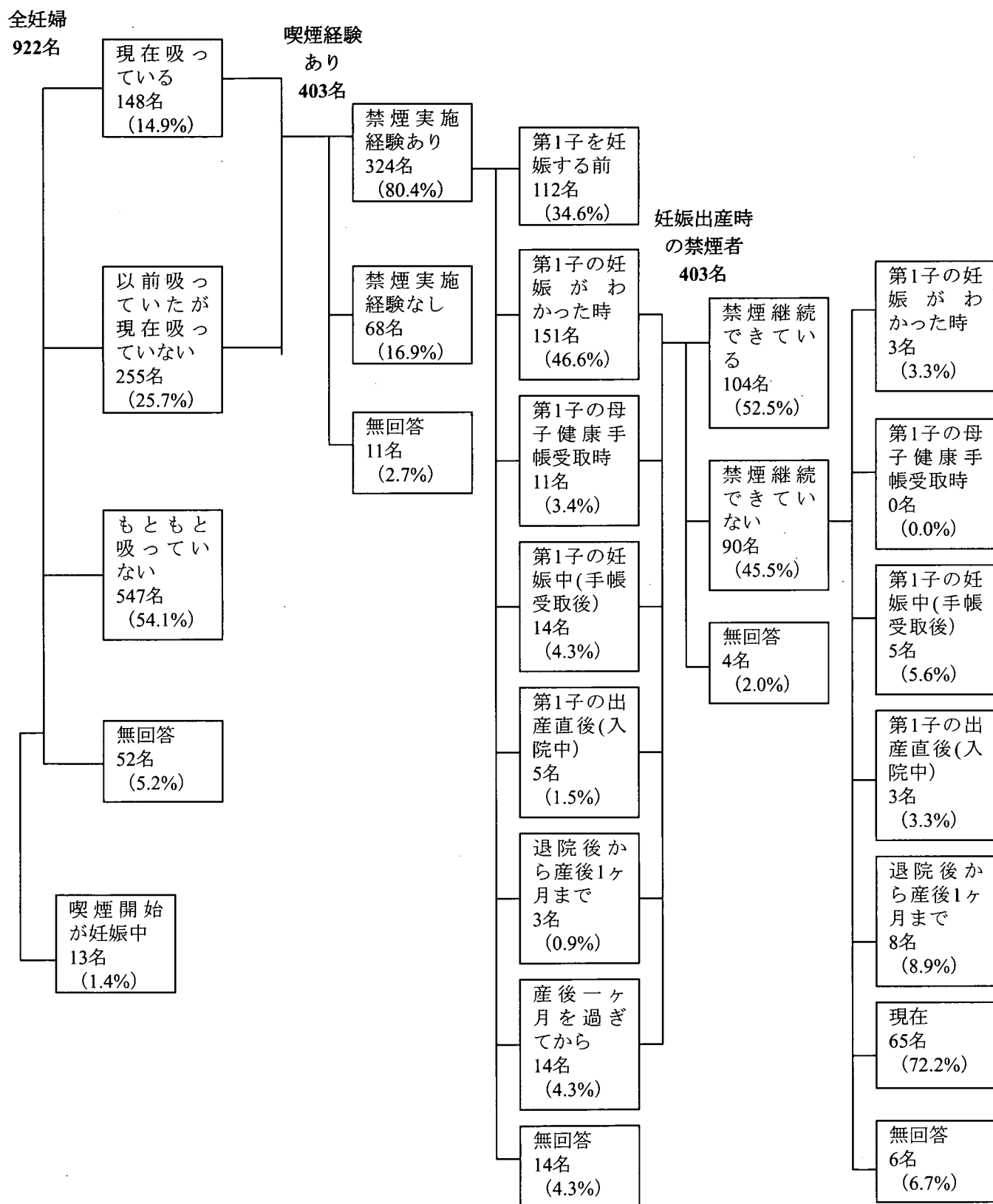
本研究の企画に際し、貴重なアドバイスをいただきました加治正行先生をはじめ、同研究グループの先生方に感謝いたします。

## VI. 文献

1. 健やか親子21検討会：健やか親子21検討会報告書－母子保健の2010年までの国民計画－，厚生省（現厚生労働省），2000年
2. 健やか親子21ホームページ  
<http://rhino.yamanashimed.ac.jp/sukoyaka/index.html>
3. 久保幸代，他：わが国における妊娠・出産後女性の喫煙に関する研究の動向－1995年から2007年の文献検討－，日本保健科学学会誌，10(3)，160－167，2007
4. 飯塚英美，他：妊婦・同居者の喫煙状況と意識の実態（第22回群馬周産期研究会総会），北関東医学会，57(2)，191，2007
5. 宮本政子，他：未熟児出生要因と生活環境に関する研究－体操特性と喫煙・飲酒との関連，香川県立保健医療大学紀要，2，35－42，2006
6. 森川香織，他：家庭内受動喫煙の環境にある妊婦の夫の喫煙行動の受け止め

- (調査, 第34回日本女性心身医学会学術集会), 日本女性心身医学会, 10(2), 32, 2005
7. 相澤志優: 妊娠中体重増加量と新生児アウトカムとの関連に関する研究, 母性衛生, 48(1), 114-121, 2007
  8. 保倉宏, 他: 当科における喫煙妊婦の実態と周産期医療に及ぼす影響について (第32回獨協医学会一般演題), 獨協医科大学, 32 (2), 110, 2005
  9. 中村靖, 妊婦の喫煙をいかに減らすか - 禁煙率を上げるにはどうすべきか (第3回禁煙推進セミナー), 日本循環器学会専門医誌, 12(2), 345-350, 2004
  10. 永田憲行, 他: 妊婦・幼児を持つ母親の喫煙行動と「喫煙が子どもに与える影響」に関する知識保有について, 熊本大学教育学部紀要, 45, 239-245, 1996
  11. 渡辺周一, 他: 青年期女性の喫煙をめぐる諸問題 - 第1報喫煙習慣および生下時体重と父母の喫煙, 東海女子短期大学紀要, 20, 13-25, 1994

表1 喫煙・禁煙状況



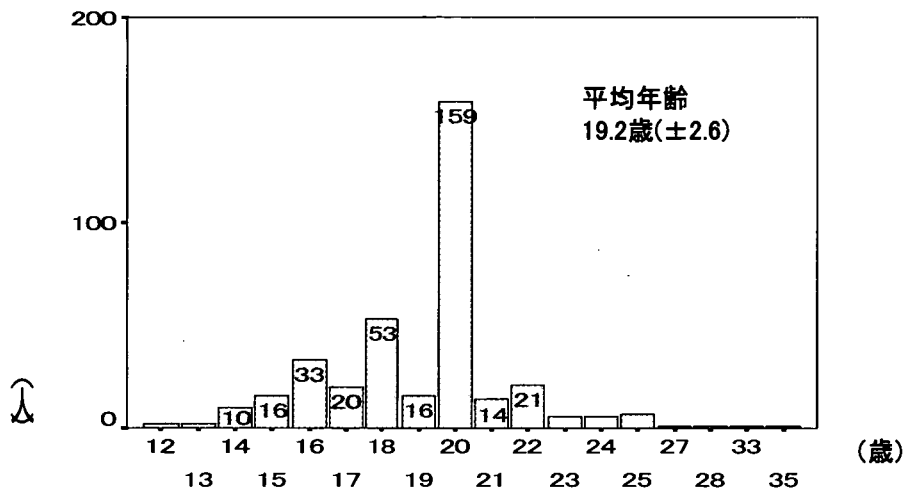


図1 喫煙開始年齢

表2 喫煙していた(いる)時期

喫煙経験者403名 (無回答を除き, 399名の回答)	(人)	(%)
第1子を妊娠する前	344	86.9
第1子の妊娠がわかった時	158	39.9
第1子の母子健康手帳受取時	52	13.1
第1子の妊娠中(手帳受取後)	49	12.4
第1子の出産直後(入院中)	17	4.3
退院後から産後1ヶ月まで	26	6.6
産後1ヶ月を過ぎてから	100	25.3

表3 喫煙が習慣化したきっかけ

喫煙経験者403名 (無回答を除き, 383名の回答)	人数(人)	割合(%)
周囲の喫煙から	288	54.3
興味本位	136	35.5
ストレス解消	129	33.7
なんとなく	121	31.6
カッコいいから	25	6.5
太らないから	19	5.0
大人に近付きたいから	9	2.3
多忙	7	1.8
夫の喫煙	4	1.0
その他	5	1.3

表4 禁煙時および再喫煙時の状況

禁煙時:妊娠・出産時に禁煙した198名 再喫煙時:98名 (無回答を除く)		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
夫との関係	(状況)	良好だった		良好でなかった	
	禁煙時	134	89.3	16	10.7
	再喫煙時	58	86.6	9	13.4
体調	(状況)	よかった		悪かった	
	禁煙時	107	67.3	52	32.7
	再喫煙時	55	82.1	12	17.9
楽しさ	(状況)	楽しい時期だった		つらい時期だった	
	禁煙時	87	57.6	64	42.4
	再喫煙時	46	69.7	20	30.3
ゆとり	(状況)	ゆったりしていた		イライラしていた	
	禁煙時	86	52.1	79	47.9
	再喫煙時	33	46.5	38	53.5
気持ち	(状況)	張りのある生活		ふさぎこんでいた	
	禁煙時	116	76.8	35	23.2
	再喫煙時	53	81.5	12	18.5
周囲のサポート	(状況)	あった		なかった	
	禁煙時	86	58.1	62	41.9
	再喫煙時	36	57.1	27	42.9
夫(家族)の禁煙	(状況)	禁煙していた		喫煙していた	
	禁煙時	29	19.1	123	80.9
	再喫煙時	10	13.7	63	86.3

表5 再喫煙のきっかけ

禁煙継続できなかった90名 (無回答を除き, 86名の回答)	人数(人)	割合(%)
育児・家事でイライラして	47	52.7
がまんできなかったから	38	41.8
母乳を与えていないから	18	19.8
なんとなく	18	19.8
妊娠中ほど気をつけなくてよ いと考えて	12	13.2
太らないため	8	8.8
やせると思ったから	0	0

## 妊娠・出産における全体的満足度と 助産婦の指導・対応との関連に関する研究

樋口 善之	福岡県立大学看護学部
津川 美樹	愛仁会看護助産専門学校
安藤 英美	愛仁会看護助産専門学校
木下 真美	愛仁会看護助産専門学校
木戸 奈穂巳	愛仁会看護助産専門学校
朴 明美	愛仁会看護助産専門学校
小川 知	愛仁会看護助産専門学校
野間 裕子	愛仁会看護助産専門学校
増本 綾子	愛仁会看護助産専門学校
倉本 孝子	愛仁会看護助産専門学校
内田 美智子	内田産婦人科医院
内田 克彦	内田産婦人科医院
岩田 美紀	えびの共立病院
黒木 透	えびの共立病院
平野 剛	平野マタニティクリニック
市川 香織	日本助産師会
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部
山縣 然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部

本研究は、妊娠・出産における全体的満足度に影響を与える助産師の指導・対応について探索することを目的に、産褥1ヶ月健診を受けた女性240名を対象とした自記式質問紙調査を行なった。239名から有効な回答を得た。分析の結果、1) 妊娠・出産に満足していた者は、98.3%であった。2) 妊娠・出産に対する全体的満足と有意な関連がみられた項目は、妊娠期に関する3項目「呼吸法の指導（妊娠中）」「マタニティビクス」「マタニティヨーガ」、分娩期に関する8項目「呼吸法（分娩中）」「マッサージ」「体を温める」「（局所的に）体を冷やす」「体・汗をふく」「排泄」「散歩」「安楽な体位の工夫」、産褥期に関する2項目「アフタービクス」「異常時の対応」、出産時における助産師の対応、接遇に関する1項目「陣痛の辛さを分かってくれた」であった。3) 妊娠・出産に対する全体的満足度に対しての影響が大きい助産師の指導・対応に関する項目は、妊娠期に関する項目の「マタニティビクス」、分娩期に関する項目の「（局所的に）体を冷やす」、出産時における助産師の対応、接遇に関する項目の「陣痛の辛さを分かってくれた」であることが示唆された。

### A. 研究目的

この研究の目的は、「妊娠・出産満足度」に影響を与える助産師の指導・対応について探索することである。

### B. 研究方法

#### 調査対象

大阪府、兵庫県、福岡県、鹿児島県の1府3県における計8箇所の産科施設において、産褥1ヶ月健診を受けた母親240名を対象とした。

#### 調査方法

上記の対象に対し、自記式質問紙調査を実施した。なお、調査への参加にあたっては、調査票表紙に、調査の目的、調査責任者の連絡先を

記し、1) 得られた情報により、個人を特定することはない、2) 調査委への参加は自由であり、不参加、未記入による不利益は生じないこと、を明記した。

なお、この調査は、2007年12月～2008年1月にかけて実施された。

## 調査項目

調査票は以下の項目により構成された。

- A) 「出産時の状況」
- B) 「妊娠中から現在までの継続的な育児に関する相談相手」
- C) 「妊娠・出産に関する満足度」
- D) 「助産師から受けた指導に対する満足度」
  - ① 妊娠期における助産師の指導に関する10項目
  - ② 分娩期における助産師の指導に関する15項目
  - ③ 産褥期における助産師の指導に関する4項目
  - ④ 出産時における助産師の対応、接遇に関する13項目
- E) 「妊娠中の喫煙、飲酒に関する状況」
- F) 「出産に対しての希望・計画」

## 分析対象

上記の調査対象240名に対して調査票を配布したところ、239名から回答を得た(有効回収率99.6%)。

## C. 結果

### 出産時の状況

問1: 分析対象における「今回、出産した時の出生順位」に関して、“第1子”54.0%、“第2子”31.4%、“第3子”11.3%、“第4子以降”2.1%であった。無回答は3名(1.3%)であった。

問2: 出産した児の性別は、男児53.6%、女児46.0%、無回答0.4%であった。

問3: 出産施設に関して、“病院”36.7%、“診療所”57.7%、無回答2.5%であった。

問4: 娩様式に関して、“経膈分娩”83.7%、“帝王切開”16.3%であった。

問5: 児の出生体重に関して、“2500kg以上”

93.7%、“2500kg未満”5.0%、無回答1.3%であった。

問6: 出産施設でも母子同室に関して、“24時間同室”61.5%、“日中のみ同室”20.9%、“別室”15.9%であった。無回答は1.7%であった。

問7: 今回の妊娠・出産の満足度に関して、“とても満足している”57.3%、“満足している”40.2%、“満足していない”1.7%であった。無回答は0.8%であった。

問8: 妊娠時の年齢に関して、 $30.8 \pm 4.39$ であった。

「妊娠中から現在までの継続的な育児に関する相談相手」

問9: 「あなたにとって、妊娠中からの継続的な育児の相談相手は誰ですか」という設問に対して複数選択方式により回答を求めた。その結果、最も多く見られた回答は、“夫婦で相談する”85.4%、ついで“祖母(祖父)”74.9%、“友人”61.5%であった。“保健師や助産師”と回答した者は31名13.0%であった。“誰もいない」と回答した者は1名のみであった。

「妊娠・出産に関する満足度」

問10: 妊娠・出産についての19項目に対して、それぞれ、満足している項目に○を、満足していない項目に×をつけるよう求めた(表1)。

もっとも多くの方が○をつけた項目は、“7. 助産師の技術”97.1%、次いで“産婦人科医の技術”96.7%、“産婦人科医の指導・対応”95.8%であった。○をつけた者が最も少ない項目は、“妊娠中の受動喫煙への配慮”51.0%であった。どの項目にも○をつけなかった者は、6名(2.5%)みられた。

「助産師から受けた指導に対する満足度」

A) 妊娠期における助産師の指導に関する10項目

問11の1-10: 妊娠期における助産師の指導についての10項目に対して、それぞれ、満足している項目に○を、満足していない項目に×をつけるよう求めた(表2)。もっとも多くの方が○をつけた項目は、“5. お産の経過について”82.4%、次いで“乳房・乳頭ケア”80.3%、“食事指導”79.1%であった。○をつけた者が



最も少ない項目は、“マタニティビクス”23.4%であった。どの項目にも○をつけなかった者は、20名(8.4%)みられた。

#### B) 分娩期における助産師の指導に関する15項目

問11の11-25:分娩期における助産師の指導についての15項目に対して、それぞれ、満足している項目に○を、満足していない項目に×をつけるよう求めた(表3)。もっとも多くの者が○をつけた項目は、“11.入院時の電話対応”80.8%、次いで“19.飲水・食事への配慮”80.3%、“21.休息への配慮”79.9%であった。○をつけた者が最も少ない項目は、“つぼ押し”38.1%であった。どの項目にも○をつけなかった者は、23名(9.6%)みられた。

#### C) 産褥期における助産師の指導に関する4項目

問11の26-29:産褥期における助産師の指導についての4項目に対して、それぞれ、満足している項目に○を、満足していない項目に×をつけるよう求めた(表4)。もっとも多くの者が○をつけた項目は、“26.授乳指導”88.7%、次いで“育児指導(おむつ交換・抱っこ・沐浴)”86.6%であった。○をつけた者が最も少ない項目は、“アフタービクス”32.2%であった。どの項目にも○をつけなかった者は、23名(9.6%)みられた。

#### D) 出産時における助産師の対応、接遇に関する13項目

問12の1-13:出産時における助産師の対応、接遇についての13項目に対して、それぞれ、満足している項目に○を、満足していない項目に×をつけるよう求めた(表5)。もっとも多くの者が○をつけた項目は、“12.赤ちゃんの誕生を一緒に喜んでくれた”93.7%、次いで“赤ちゃんを大切に扱ってくれた”92.9%であった。○をつけた者が最も少ない項目は、“陣痛の痛さを分かってくれた”80.3%であった。どの項目にも○をつけなかった者は、23名(9.6%)みられた。

#### 「妊娠中の喫煙、飲酒に関する状況」

問13:妊娠中の喫煙状況について、“なし”と回答した者は84.1%、“途中でやめた”7.5%、“あり”5.0%であった。無回答は8名(3.3%)

であった。

問14:妊娠中の夫の喫煙状況について、“なし”と回答した者は、50.6%、“途中でやめた”1.7%、“あり”44.4%であった。無回答は8名(3.3%)であった。

問15:妊娠中の飲酒状況について、“なし”と回答した者は、80.8%であった。“あり”と回答した者は15.9%、その内訳は、“妊娠中に10回未満”73.7%、“月に1~2回”21.1%、“週に1~2回”5.3%であった。

#### 「出産に対する希望・計画」

問16:「出産に関して『こう産みたい』等の希望・計画を持たれていましたか」という設問に対して、複数回答で回答を求めたところ、“経膈分娩”72.0%、“無痛分娩”5.9%、“帝王切開”4.6%、“夫の立ち会い分娩”59.0%であった。

問17:上記の問16の希望に対する、それぞれの計画に対するの実現度は、“経膈分娩”92.0%、“無痛分娩”100%、“帝王切開”83.3%、“夫の立ち会い分娩”83.8%であった。

#### 妊娠・出産の全体的満足度と助産師の指導対応に関する項目との関連

妊娠・出産の全体的満足度と助産師の指導対応に関する42項目との関連について、 $\chi^2$ 分析により検討した。その結果、A)妊娠期に関する3項目「呼吸法の指導(妊娠中)」「マタニティビクス」「マタニティヨーガ」、B)分娩期に関する8項目「呼吸法(分娩中)」「マッサージ」「体を温める」「(局所的に)体を冷やす」「体・汗をふく」「排泄」「散歩」「安楽な体位の工夫」、C)産褥期に関する2項目「アフタービクス」「異常時の対応」、D)出産時における助産師の対応、接遇に関する1項目「陣痛の辛さを分かってくれた」において、有意な関連がみられた( $p < .05$ )。 $\chi^2$ 乗分析により、全体的お産満足度との関連がみられたこれら14項目において、その影響度を比較することを目的とした順序回帰分析を行なった。その結果、回帰係数が5%水準で有意であった項目は、A)妊娠期に関する項目の「マタニティビクス」、B)分娩期に関する項目の「(局所的に)体を冷やす」、D)出産時における助産師の対応、接遇に関する項

目の「陣痛の辛さを分かってくれた」であった。最終的な分析モデルにおけるモデルの説明率 (Negelkerke による R2) は 0.147 であった。

#### D. 結果のまとめ

- 1) 妊娠・出産に満足していた者は、98.3%であった。
- 2) 妊娠・出産に対する全体的満足と有意な関連がみられた項目は、A) 妊娠期に関する3項目「呼吸法の指導 (妊娠中)」「マタニティビクス」「マタニティヨーガ」、B) 分娩期に関する8項目「呼吸法 (分娩中)」「マッサージ」「体を温める」「(局所的に) 体を冷やす」「体・汗をふく」「排泄」「散歩」「安楽な体位の工夫」、C) 産褥期に関する2項目「アフタービクス」「異常時の対応」、D) 出産時における助産師の対応、接遇に関する1項目「陣痛の辛さを分かってくれた」であった。
- 3) 妊娠・出産に対する全体的満足度に対しての影響が大きい助産師の指導対応に関する項目は、A) 妊娠期に関する項目の「マタニティビ

クス」、B) 分娩期に関する項目の「(局所的に) 体を冷やす」、D) 出産時における助産師の対応、接遇に関する項目の「陣痛の辛さを分かってくれた」であることが示唆された。

#### E. 文献

- 1) 櫃本真幸, 他: 「健やか親子 21」推進の効果に関する研究～妊娠・出産期、子育てにおける満足度に影響を与える要因及び次の出産意欲への影響要因～, 山縣班報告書 (厚生科学研究), 2005.
- 2) ジェームス・クラップ/目崎登監訳: 妊娠中の運動ハンドブック, 100-125, 2000.
- 3) 東野妙子, 他: 母性看護学 1. 妊娠・分娩, 276, 1998.
- 4) 我部山キヨ子: 臨床助産師必携 生命と文化をふまえた支援, 第2版, 256, 2006.

表 1. 問 10 「妊娠・出産に関する満足度」：満足した項目に○をつける

	ケースに対する割合(n=239)		ケースに対する割合(n=239)
1. いいお産をするための自分自身の頑張りに関する情報	76.2%	10. 産婦人科医、助産師以外の産科施設スタッフの指導・対応	91.2%
2. いいお産をするための自分自身の頑張りに関する情報	84.9%	11. 産科施設の設備や食事等の快適さ	94.6%
3. 産科施設に関する情報	87.0%	12. 保健センター・保健所等のサービス	56.9%
4. 専門職（産婦人科医、小児科医、助産師、その他）による継続的な関わり	86.6%	13. 夫の理解や対応	90.0%
5. 産婦人科医の技術	96.7%	14. その他の家族・親族の理解や対応	91.6%
6. 産婦人科医の指導・対応	95.8%	15. 友人の理解や対応	94.6%
7. 助産師の技術	97.1%	16. 職場の理解や対応	69.0%
8. 助産師の指導・対応	95.4%	17. 社会の理解や対応	62.3%
9. 産婦人科医、助産師以外の産科施設スタッフの技術	95.4%	18. 妊娠中の受動喫煙への配慮	51.0%

表 2. 問 11 の 1～10 「妊娠期における助産師の指導に対する満足度」

	ケースに対する割合
1. 出産クラス（母親・両親学級）	77.0%
2. 食事指導	79.1%
3. 生活指導	78.2%
4. 出産・育児準備	77.0%
5. お産の経過について	82.4%
6. 呼吸法の指導（妊娠中）	68.2%
7. 乳房・乳頭ケア	80.3%
8. マタニティビクス	23.4%
9. マタニティヨーガ	32.6%
10. 入院のタイミング	77.4%

表 3. 問 11 の 11～25 「分娩期における助産師の指導に対する満足度」

	ケースに対する割合
11. 入院時の電話対応	80.8%
12. 呼吸法（お産中）	77.0%
13. マッサージ	59.8%
14. ツボ押し	38.1%
15. 足浴	38.9%
16. 体を温める	58.6%
17. 体を冷やす	42.7%
18. 体・汗を拭く	54.4%
19. 飲水・食事への配慮	80.3%
20. 排泄への配慮	78.7%
21. 休息への配慮	79.9%
22. 散歩	56.5%
23. 安楽な体位の工夫	65.3%
24. アロマセラピー	48.5%
25. 環境調整（照度、BGMなど）	60.3%

表 4. 産褥機における助産師の指導に関する 4 項目

	ケースに対する割合
26. 授乳指導	88.7%
27. 育児指導（オムツ交換・抱っこ・沐浴）	86.6%
28. アフタービクス	32.2%
29. 異常時の対応について	59.8%